



『令和6年度 全国学力・学習状況調査』の結果分析について



令和6年10月

武生第三中学校

4月18日(木)に3年生を対象に実施された、『全国学力・学習状況調査』の結果とその分析結果についてお知らせします。これらの結果をもとに、学校全体で指導法の工夫改善に取り組み、学力のさらなる向上を目指してまいりますので、ご家庭の方でもご協力のほどよろしくお願い致します。

＜◎大変良いところ ○良いところ ▲課題があるところ＞ 国…全国と比べて 県…県と比べて

☆国語について 全体では正答率で全国平均を上回り、福井県平均とほぼ同じぐらいでした。

＜学習指導要領の領域等から見た結果＞

- ◎知識及び技能「言葉の特徴や使い方に関する事項」 国・県
- 知識及び技能「我が国の言語文化に関する事項」 国
- 「書くこと」に関する能力 国
- ◎「情報の扱い方に関する事項」 国・県
- ▲「話すこと・聞くこと」に関する能力
- ▲「読むこと」に関する能力

【問題内容から見た成果】

- ◎「情報の扱い方に関する事項」の「情報と情報との関係について理解する力」や、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「文脈に即して漢字を正しく書く力」や「文の成分の順序や照応について理解する力」に関する問題ができていました。
⇒漢字や文法的な事柄については、範囲を区切って、復習や小テストを継続的に行うことで、学んだことが確実に身につくよう積み上げてきた成果が表れています。

【問題内容から見た課題と対策】

- ▲「話すこと・聞くこと」において、話の展開に注意しながら内容を聞き取り、必要に応じて質問するなどして話の内容を捉えることに苦手な傾向が見られました。
⇒話し合い活動において、提案や主張など自分の考えを話したり、他人の意見を聞いて質問したりする活動を取り入れ、その後振り返りを行うことで、話の内容を捉える力をつけていきます。
- ▲「読むこと」において、文章の全体と部分の関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える力が不十分な傾向が見られました。
⇒説明的な文章の読解において、接続する語句に注意しながら、文章中に示されている具体例と、筆者の主張との関係を捉え、内容を読み取る力をつけていきます。

- ★「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、タブレットを効果的に活用する場面や方法をさらに工夫するとともに、生徒自らが考えを友達と交流・共有できるような場を積極的に設け、その後、個に戻って学習を振り返ることで、生徒一人一人が考えの深まりや広がりを実感できるような授業を行ってまいります。
- ★本や新聞、辞書、タブレットなどを授業の中で活用し、いろいろな言葉や文章に触れる機会を増やし、語彙力をつけていきます。

＊数学について 全体では正答率で全国平均を上回り、福井県平均をやや下回っていました。

＜学習指導要領の領域等から見た結果＞

- 「数と式」領域に関する能力 国
- 「関数」領域に関する能力 国
- 「知識・技能」に関する能力 国
- 「図形」領域に関する能力 国
- ▲「データの活用」領域に関する能力
- 「思考・判断・表現」に関する能力 国

【問題内容から見た成果】

- ◎無解答が全体的に少ない傾向にあります。構想を立てて説明する問題や筋道を立てて証明する問題においても、あきらめずに問題に取り組み、粘り強く考えようとする態度が向上しています。
⇒説明および証明に関する問題では、いくつかの段階に区切って筋道を立てて考え、ここまでは解いてみようという目標を立て、根拠を踏まえながら整理して書いたり、途中まででも考えたことを認め合ったりする活動の成果が表れています。

【問題内容から見た課題と対策】

- ▲「四分位範囲」と「範囲」、「最頻値」と「最大値」など、よく似た数学の用語を混同する誤答が多く見られました。
⇒数学の用語や概念については、新出用語として出てきたときだけでなく、機会あるごとに振り返って確認する反復学習を行うことを通して、その意味や特徴を正しく理解した上で処理できる力を養ってまいります。
- ▲文章量が多く、いくつかの図やデータ、グラフなどを組み合わせて考える問題について、理解が不十分な傾向が見られました。
⇒情報量が多い問題を扱う機会を増やし、そのような問題に対して、大事なところに線を引かせるなど、たくさんの情報の中から必要な情報を整理し、問題を理解して説明する力をつけていきます。

▲数の性質を予想する問題が苦手な傾向が見られました。

⇒具体的な数字を用いて何通りか試してみることで、数の性質を予想する場面を丁寧に扱い、説明する力をつけていきます。

★「日常生活や社会」と「数学」を結びつけて考えられるような題材を取り入れたり、既習内容をもとに自分たちで新しい数学の概念を作り上げていくような授業展開にしたりするなど、生徒自ら課題を見だし、数学を活用して問題を解決しようとする生徒主体の学習を目指し、「数学のよさ」や「数学の面白さ」を実感することができる授業づくりに努めていきます。

★学習者用デジタル教科書を活用して、図を動かす機能を使って視覚的に課題を把握させたり、リピート機能やフラッシュカードを使って自分のペースで学習内容を確認する機会を与えたりするなど、数学への苦手意識を軽減することに取り組んでいきます。

★タブレットを利用して考えを交流する場面を増やすなど、集団で考えることにより、生徒の考えが深まったり広がったりする楽しさを実感できる授業づくりに取り組んでいきます。

◎生徒質問紙より 多くの項目で国の数値を上回り、県の数値と同じくらいでした。

《良いところ》

◎「自分には、よいところがある」と答えた生徒の割合が高い傾向にあります。国・県

◎「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた生徒の割合が高い傾向にあります。国・県

◎「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた生徒の割合が高い傾向にあります。国・県

◎「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫する」と答えた生徒の割合が高い傾向にあります。国・県

◎「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた生徒の割合が高い傾向にあります。国・県

◎「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と答えた生徒の割合が高い傾向にあります。国・県

《課題のあるところ》

▲「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」と答えた生徒の割合がやや低い傾向にあります。

▲「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」と答えた生徒の割合がやや低い傾向にあります。

▲1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」と答えた生徒の割合がやや低い傾向にあります。

▲「友達関係に満足しています」と答えた生徒の割合がやや低い傾向にあります。

★「自分には、よいところがある」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という生徒の割合が高い傾向にあるのは、道徳教育をはじめ、教育相談の充実、学年や学級におけるエンカウンターなど定期的な様々な活動の成果であると考えられます。

★自分と違う意見について考えたり、自分で学び方を考え工夫したりする生徒の割合が高い傾向にあるのは、グループ学習やタブレットを使って考え方の交流を行うなど、生徒が主体となって活動に取り組んでいる成果であると考えられます。

★「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という生徒の割合が高い傾向にあるのは、福祉学習やふるさと学習などの活動の成果であると考えられます。今後も、地域に愛着を持ち豊かな心をはぐくむ取組や、地域の行事に参加しやすい環境づくりの取組を継続していきます。

★「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣について継続して家庭と連携した取組を行っていきます。

★絆づくり活動（人間関係づくり）や、学校行事における一人一役、ボランティア活動などを通して、自他の新たな面や良さを知るとともに、友達や地域の人とのよりよい関わり方について考える機会をつくっていきます。

★自分のペースで学習に取り組めるように、タブレットや問題集をはじめデジタルドリル等を活用し、自分のペースでできる家庭学習などに取り組んでいきます。

三中では「自ら学び、豊かな人間性を備えた生徒の育成」を研究テーマとし、限られた時間の中で目標をもって生徒の力を伸ばしていきたいと考えています。ご家庭におかれましても、お子さんの様子を気にかけていただき、励ましていただくと幸いです。

（※越前市全体の結果分析については、越前市のホームページからご覧ください。）